

(2009.9.21)

# WUBの岐路

## 中国・沖縄

★ビジネス交流の未来

<上>

十九日に上海で開催された第十一回WUB（ワールドワイド・ウチナンチュ・ビジネスアソシエーション）世界大会には各国から約百八十人の関係人が参加した。「ウチナンチュ」の言葉のもと多くの具出身・具系人が集まったが、本大会を通じてWUB会員間にはWUBの役割に関し「認識のズレ」が生じていることが浮き彫りになった。

会員からは「支部の定例会で話し合うのは次回の世界大会のことばかり。現状に不満を持っていてる会員がいるのは事実だ」「お金を出し世界大会に参加しても、そこでビジネスが成り立たないと次回参加しないと意思が異なる。WUBを通じてビジネスチャンスへの「出会い」に期待を寄せ

■鍵は各自の積極性  
WUB創設者のロバート仲宗根氏は「WUBにはウチナンチュという言葉が入っていることの意味がある。ビジネスだけの団体だったら商工会などと変わらない。WUBは道（ネットワーク）をつくった。活用するのは各会員自身だ」と強調

# 会員間に「認識のズレ」

■目に見えるビジネス

「お祭りや打ち上げ花火的なイベントも大事だが、それだけではビジネスは生まれない」。十九日のパネル討論会場で、WUBに引き付けるためスが重要だとその意見が上

実質的な商談の場の必要性が指摘された。ウチナンチュとしての意識が薄れつつある若い世代をWUBに引き付けるためスが重要だとその意見が上

る声が相次いだ。

一方「結果的にビジネスや起業につながるのには良いが、それを追求しなくても良いのでは。WUBの活動は外部に評価されるのが目的ではない」との意見も出た。

する。

WUB幹部は「各企業間の経営戦略上、WUBを通じて協力関係があっても広く公表しない場合も多く、実績が目に見えにくいのも事実」と漏らす。

# 「役割」再確認の時期



WUBの役割と可能性について論議を深めたWUB世界大会＝19日、上海市内のホテル

「ビジネス」と「ウチナンチュ」。この二つの言葉が背負う期待と意味は大きい。創設から十年を迎えた今、WUBは自身の役割についていまだ一度確認する時期にきている。

◆ ◆ ◆

上海でのWUB世界大会は経済成長著しい中国を体感したいと南米や北米の会員からの要望を受け実現した。十七日十九日にかけて、中国ではWUB世界大会のほか、県主催の経済特区セミナーや沖縄県・福建省友好県省締結十周年祝賀会が開かれた。官民の注目を一身に集める中国での一連のイベントを通じ、中国と沖縄のビジネス交流の現状を報告する。

（仲井間都江）